

2020 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [北九州市立中井小学校] 担当教諭名 [甲斐 聡美] (5年1・2・3・4組 125名)

相手国・地域 [カナダ]

海外学校名 [Wyevale Central Public School] 担当教諭名 [Jim Carleton]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単元名	時間数
		総合的な学習の時間	住み続けられる世界のために

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	SDGs11 持続可能なまちと地域社会 コロナを乗り越えるための世界の「協働」
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	新型コロナウイルスによって、世界中で解決すべき問題がたくさん発生した。自分たちの身の回りに起こったことをきっかけに、世界の状況に目を向け、「みんなが住み続けられる世界にするために」をテーマとし、これからの社会はどのようにあるべきか、自分たちはどのようなことを考えて生きていけばよいかを考えていこう。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
新型コロナウイルスが及ぼす影響について、身の回りのできごとだけでなく、世界の様々な状況にも目を向けることができるようになった。また、カナダとの交流を通して、同年代の子ども達が世界の各地で同じ思いや悩みをもって過ごしていることを実感することができた。	現状を把握し、理想社会をイメージし、自分たちがすべきことやできることを考え、日常的な方策を実施することや、自分たちの学びを発信するところまではできたが、例えば学校中を巻き込んで取組を拡げていくところまではいかなかった。また、お互いの国の休校時期などが異なり、他教科とのバランスもあり、時間確保が難しかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
取り組む前は、海外に対する意識を持っている児童はほとんどいなかったが、相手国について調べたり交流したりする中で、カナダの国土や気候、生活習慣などに興味をもつようになった。また、他の国にも興味を示す児童も増えた。	交流を進めるためには、自分たちがしっかりと考えをもたなければならないと思った。自己紹介の段階では日本の自文化理解をしっかりとする必要性を感じた。また、各自の課題に取り組む児童に対し、どんな姿を引き出すのか、何に気付かせるのか、など、教師がねらいをもって仕掛けていくこと、児童個々の学びに柔軟に対応することが大切だと実感した。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月 ～ 9月	新型コロナウイルスという課題について各自で課題を決め、調べ学習を進めた。9月にはカナダとの交流に向けて自己紹介動画を作った。	休校明けで身近な課題だったので、インターネットを中心に調べ学習を進めた。カナダとの交流は、まだ実感が少ない様子だった。	総合26
共有 テーマ学習	10月	個人調べの後、課題別にグループ学習を進めた。調べたことは校内の学習発表週間で全校に発信した。	カナダからの動画を見ることで、海外でも自分たちと同じように感染防止対策をしながら過ごしている子ども達がいることを実感していた。	総合11
融合 メッセージ作成	11月	言語が異なっても絵で思いを共有できるという考えから、学習したことを各自が絵に表現した。児童の絵から壁画のデザイン案を考えた。	「住み続けられる世界」をイメージし、調べたこととSDGsについて学習したことを絵にどのように表現しようかと熱心に考えていた。	総合7
創造 壁画制作	12月	児童の中から実行委員会を立ち上げ、地域のイラストレーターさんをGTに迎え、各学級ごとに下絵から色塗りまで進めた。	慣れない画材であったが、SDGsの色合いを生かし、児童相互で意見交換をしながら壁画作成を進めることができていた。	総合10
評価 振り返り 自己評価	1月	これまでの学習を想起し、調べ学習やカナダとの交流、壁画作成を経て自分の考えがどのように変容したかを振り返り、発表し合った。	学習前よりも、課題に対して「自分は何をすべきか」と主体的に考えることができるようになった。また、海外の状況に興味をもつ児童が増えた。	総合2

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	3	特に、カナダへの自己紹介動画を作る段階で、相手国を知ろうという気持ちや、日本のことをどのように紹介するかなどを考えることができていた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	「調べたことを伝える」「思いを伝える」ことに重点を置いて学習を進める中で、当たり前だと思っていたことが本当にそうなのか、正しいと思っていることが見方や立場を変えると必ずしもそうではないのではないか、と様々なことを問い直すことができた。
主体的に考え行動する力	4	学習の初めの段階から自分の課題に向かって各自で学習を進めてきたので、児童は、終始、主体的な態度で学習を進めることができていた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	時差の関係で、直接対話することはできず、動画のみの交流となったが、慣れない英語で思いを伝えるためには、ジェスチャーや表情なども大切であることを学んでいた。異なる国の人とも、発信したい思いや考えを共有して、ともに一つのことに当たっていることを実感し、お互いを知り合うことや思いや考えを伝え合うことよさや協働することの価値に気付くことができた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	学習したことを壁画にデザインし、相手国に届き、続きを作成している様子を見た児童は、言葉ではなくても、絵に表すことで思いが伝わり、協働できるという実感を強くもつことができた様子だった。